

農業における放射性物質の影響と対策

福島大学つくしまふくしま未来支援センターでは、農業における放射性物質の影響と対策について、一般の方にも知っていただくために、さまざまな形式で解説を行っています。

ここでは、センター研究者（小山良太副センター長）が登場したふたつの資料から、その要点をご紹介します。

①時間の経過で減衰



【図1】

放射性物質は、時間の経過と共に、減衰します。

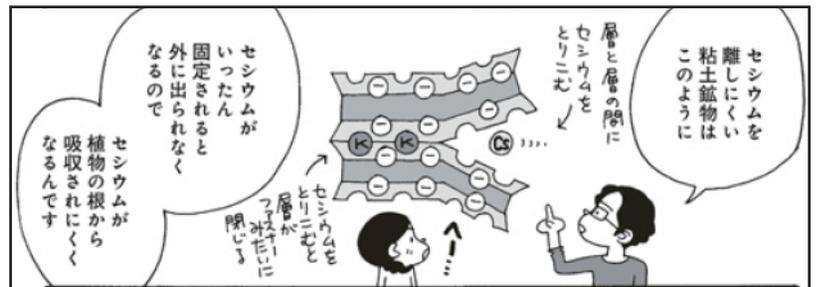
②土と結合すると農作物への影響が弱まる



【図2】

土の中にある放射性セシウムは土の粒子に固定されている「粒子態セシウム」になっています。

土の粒子と結合した放射性セシウムが、農作物へ吸収されることはほとんどありません。



【図3】

③カリ質肥料で吸収抑制対策

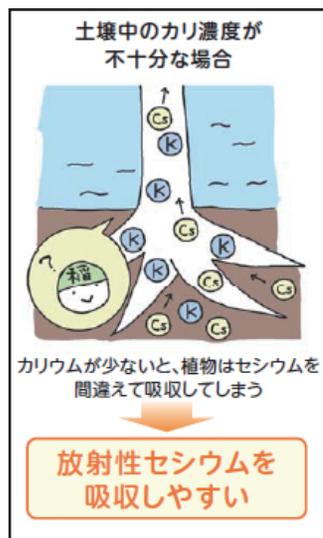
カリ質肥料を施肥することで、放射性セシウムの吸収を抑制できます。



【図4】



【図5】



【図6】

より詳しく知りたい方は下記資料をご覧ください！



【図7】



【図8】

福島県における農産物の検査体制

福島大学つくしまふくしま未来支援センターでは、農産物における放射性物質検査体制について、一般の方にも知っていただくために、データが公開されているウェブサイトをご紹介します。



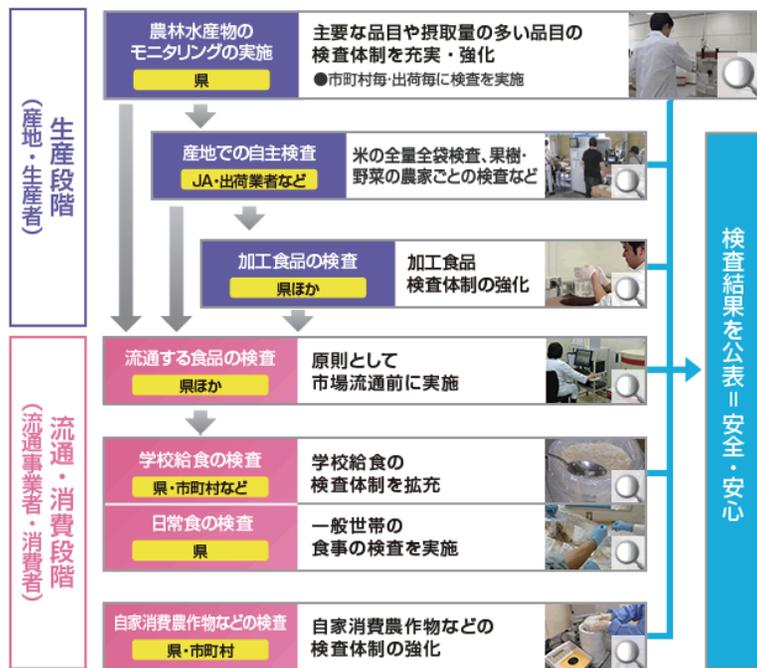
【福島県 検査結果を含め豊富な情報を提供】
<http://www.new-fukushima.jp/>



【ふくしまの恵み安全対策協議会 検査結果など公開】
<https://fukumegu.org/ok/contents/>

福島県内では、農水産物の徹底した放射性物質検査を続けています

福島県内では、モニタリング検査と産地での自主検査を組み合わせ、多段階の検査を行っています。検査結果は全てウェブサイト（ふくしま新発売、ふくしまの恵み安全対策協議会）で公表しています。



http://www.new-fukushima.jp/monitoring_inspection より転載

【福島県 モニタリング検査検体数】

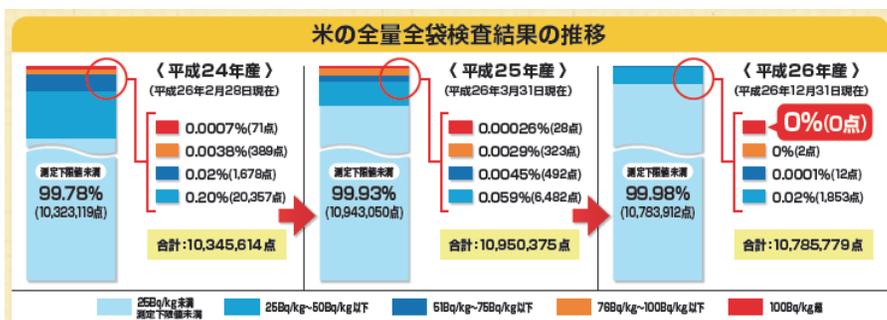
2011年度	18,247点
2012年度	26,222点
2013年度	28,141点
2014年度	26,041点
2015年度	検査継続

<http://www.new-fukushima.jp/monitoring/about.php> より転載

さらに玄米は全量全袋検査

→ 約1000万袋

これまでの検査結果をまとめたグラフを確認できます



https://fukumegu.org/ok/images/pdf/leaf_inside.pdf より転載

玄米の全量全袋検査の結果をみると2014年度は基準値 (100Bq/kg) を超える玄米が0% (0点) となりました。さらに99.99%は測定下限値 (25Bq/kg) 未満となっています。